

[報 告]

第33回北海道ブロック会研修会を終えて

日本赤十字社臨床検査技師会
北見赤十字病院（北海道）

検査部 畑 中 宗 博

道東の山々も彩づき始めた9月11日、12日の両日、当院をホスト病院に『第33回北海道ブロック会研修会』が開催されました。

参加者は全道各施設より39名、研修会の内容は一般演題9題、特別講演1題とやや小ぶりながらも充実したものとなり、会の開催に合わせて行われた定期運営委員会でも活発な意見交換がなされました。

一般演題発表では、各々の施設で経験された珍しい症例報告をはじめ、血液培養の細菌分離状況について7年間の院内疫学調査をまとめた報告など、大変貴重な発表を学ぶことができました。

また、特別講演では、病院機能評価受審をテーマに取り上げ「病院機能評価受審に向けての検査部の取り組み方」と題し、病院機能評価 Ver4.0 と Ver5.0 の相違点を中心に講演頂き、今後の検査室運営・構築に向け参考となりました。

定期運営委員会では平成15年度の事業報告並びに会計報告、平成16年度事業計画案及び予算案が提示され承認を受けました。

委員会中、開催まで後1年となりました『第15回日本赤十字社医学検査会』の学会実行委員長である高橋一志技師（釧路日赤）より、準備進捗状況と今後の予定についての報告・説明がなされ、あらためて北海道日赤ブロック会全体での強力体制を仰ぎ、一致同意を得ました。

4時間を予定していた研修会も盛会の中無事定刻通りに終了、後は山間にある宿泊ホテルに席を移し、夕刻より懇談会が行われました。海鮮焼肉と飲み放題で大いに盛り上がり、同朋の輪酣に楽しいひと時を過ごしました。また、二次会の席では、各々の病院検査室にて抱えている厳しい現状について夜が更けるまで語り明かし、より一層の親睦と絆を深め温めたようでした。

各施設、検査室の抱える問題は多種多様・多岐に亘り、検査室の経営努力だけでは及ばない難問も多く、今後は各施設全体・地域性を踏まえ、本社、支部を含めた中での方針、計画の立案が急務であるとの認識を改めて実感する会でもありました。

『第14回日本赤十字社医学検査学会』の中でも発表させて頂きましたが、大変厳しい医療環境の中、生き残りをかけた戦いはまだまだ続きます。検査室一丸となった経済性の追求、臨床支援、チーム医療を担う人材の育成、室内チームワーク、価値観の共有こそが今後の大きな要になると考えます。

最後に、平成17年9月10日、11日に当ブロック会釧路にて開催されます『第15回日本赤十字社医学検査会』には、是非、全国から多数の方に参加頂き、各々の施設・数多くの取り組みを発表して頂ければ幸いです。活発な意見交換・友好・親睦を深め、各々の検査室運営に少しでも役立つ場・機会となれば幸いです。準備・取り組んでおります。北海道ブロック会員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

連絡先：m-hatanaka@kitami.jrc.or.jp



【第8号議案 その他】

平成16年度表彰式

- ①特別功勞表彰 高橋 春秋(旭川) 小林 幸子(長岡) 古川 和夫(高山)
西岡 光夫(葛飾)
- ②学術功勞表彰 関口 美香(前橋)
- ③永年会員表彰
- 北海道ブロック 川崎 良子(旭川) 高 渕 良子(釧路) 西村 春夫(北見)
東北ブロック 小野寺 マキ(盛岡) 佐藤 静子(盛岡) 佐瀬 明子(盛岡)
鈴木 美千子(盛岡) 中野渡 進(仙台) 鈴木 研一(石巻)
平塚 けい子(石巻) 館岡 均(秋田) 石井 香代子(秋田)
- 東 部ブロック 千葉 重実(武蔵野) 太田 明(水戸) 吉田 文江(猿島)
柏瀬 芳久(足利) 近江 勉(足利) 丸島 敏男(足利)
和田 寿子(さいたま) 加藤 イセ子(さいたま) 塚田 はるよ(さいたま)
中井 三知世(医療センター) 福島 わか子(医療センター) 稲葉 孝(葛飾)
稲川 和男(葛飾) 久保 信雄(横浜) 中島 英子(横浜)
熊坂 哲夫(津久井) 川村 峰穂(長岡) 林 繁樹(前橋)
- 中 部ブロック 青山 久美子(浜松) 丸山 みな子(浜松) 青木 和雄(長野)
吉森 哲夫(福井) 菅原 礼子(福井) 福田 千代美(福井)
伊藤 博紀(名古屋第一)
- 近畿ブロック 福岡 三代子(大阪) 田川 茂樹(姫路) 大松 洋彰(姫路)
中四国ブロック 岡本 光子(鳥取) 大川 容子(鳥取) 下瀬 洋一(松江)
益井 加代子(松江) 神田 たか子(松江) 宮尾 行雄(岡山)
市川 真一(広島) 浜井 和子(徳島) 富岡 恵美子(松山)
行天 志津子(松山)
- 九 州ブロック 該当なし

各表彰者は表彰状と、特別功勞表彰は2万円の図書カードが、学術功勞表彰と永年功勞表彰は1万円の図書カードが贈られる。